

キーポイント①「トラウマによる影響を理解する」

- ▶ 氷の記憶の存在のために、「溶けてはまた凍る」→再体験症状、苦痛をもたらすので思い出されるものを避ける→回避・麻痺、「今、安全でない、安心できない」記憶の影響により眠れなかったり、ぴりぴりしたりするのが過覚醒
- ▶ トラウマ記憶をもつ人に「過去のことですから忘れましょう」等と言ってはいけないのは、トラウマ記憶のなかには言語によって処理されていない＝「過去にならない」鮮明で苦痛な情緒を伴う「今この」記憶があり、忘れようと思っても忘れられないから
- ▶ 事件に関連するものを考えること、見ることに苦痛な感情を覚えること、デリケートなプライバシーの問題を含むことから、犯罪被害者の行政的手続き、特に遺族における死亡手続きその他のときに特別な配慮（特別な部屋でゆっくり聞く）が必要
- ▶ 事件のあった場所は、もしそこがきれいに掃除されたとしても、相変わらず苦痛の源泉になるため、住居の手配は重要